

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

鹽野 めぐみ

9

第二幕 第8場

1521年秋

ロヨラ城イニゴの病室

登場人物：	騎士	イニゴ・デ・ロヨラ
	騎士	ホアン（イニゴの友人）
	城主夫人	マグダレーナ・デ・ロヨラ（イニゴの義姉）

ホアン：イニゴ、しばらく。

イニゴ：ホアン、よく来てくれたね！何日ぶりだろう？

ホアン：君をここに送ってきた時以来だからもう3か月になるよ。あの後危なかったんだってね？

イニゴ：うん、君の霊名の洗礼者ヨハネの誕生日頃は大変だったよ。すぐ君にメールで知らせようと思ったけれど、なんせまだエジソンも生まれていない時代だから無理だった。

ホアン：よく乗り越えられたね。本当に良かった。君にはまだなすべきことがあると神様が思って、助けて下さったに違いない。真面目に養生しなければね。

イニゴ：君と一緒に騎士の生活に戻りたいから、飛び出た骨を削る手術を受けたんだ。麻酔なしで、死ぬほど痛かったけど、あのままじゃあ乗馬靴も履けないしね。

ホアン：よくもまあ我慢したねー！僕だったらとてもそんな手術を受ける気がしないな。

イニゴ：兄もそう言っていた。みんなが止めたけど、あんな不格好な足で人前に出るほうがもっと耐えられないよ。

ホアン：もう痛みはなくなったのか？

イニゴ：痛みはなくなったけど、短くなったほうの足を牽引してるのでベッドに釘付けで、身動きできないんだ。退屈で退屈でしょうがないんだ。君、騎士小説持ってないか？

ホアン：持ってこなかったなあ。ここにはないのか？

イニゴ：頼んだけど、城にはその机の上にある二冊の本しかないらしい。マグダレーナ姉さんがお嫁に来るとき持参したものだそうだ。

ホアン：あー、これか？

ザクセンのルドルフ著『キリストの生涯』とヴォラジーネのヤコブ『聖人たちの華』。何やら難しそうだね。君はもう読んだのか？

イニゴ：ほんの少しめくって見たが、とっつきにくいんだ。騎士小説のようにワクワクしないし。はじめはほっといたんだが、他に何もすることがなくて恐ろしく退屈だから、この頃ぼちぼち読み始めたところだ。

ホアン：そいつは気の毒だ。今度来るとき君の好きな「アマデイス」など持ってくるよ。

(ノックの音。義姉マグダレーナが茶菓を持って入ってくる)

マグダレーナ：ホアンさん、よく来てくださいました。イニゴが元気になってきたのはうれしいんですが、今度は時間を持て余していますのでお訪ねくださって本当に喜んでます。さあ、お茶にしましょう。

ホアン：ありがとうございます。

またお世話になります、よろしく願います。

マグダレーナ：どうぞイニゴの為に 出来るだけゆっくりしてってください。
(義姉マグダレーナが盆を持って出ていく)

ホアン：いいお姉さんだね。

イニゴ：そうだね。今度も 姉と二人の姪が本当によく看病してくれた。

マグダレーナが兄ガルシアと結婚してこの城に来た時、僕はまだ7歳だった。母を亡くした僕を母に代わって愛情込めて世話してくれたんだ。あの本と一緒に、「聖母マリアのお告げの絵」を姉が持ってきたので、少年のころあのマリアの絵の前で良くお祈りしたっけ。姉には感謝しているし、頭が上がらないので、姉が勧める本も読まなければとは思っているんだ。

ホアン：騎士の『アマデイス』より面白くなるかもしれないね？

【黒い使いの合唱】

♪イニゴよイニゴ 怠け者 本を読むならアマデイスだ
『キリスト伝』など とんでもない 聖人伝も捨てちゃいな

【白衣の天使の合唱】

♪ ああイニゴ 天つみ神は 愛深き 義姉^{あね}の祈りと

その本に 光を込めて 汝^なが道を 照らし給わん